

甲賀市土山町を訪れて

奈良教育大学 数学教育専修4回生 K

平成27年11月22日から23日にかけて、甲賀市土山町の山内という地域を訪れた。一日目は、山内公民館で行なわれている文化祭に参加、山内の民俗学に詳しい鍋家さんの話の聞き取り、山内川の環境を観察、甲賀市職員の竜王さんから山内エコクラブの紹介、滋賀県議会議員の井坂先生から山内で取り組んでいる環境教育について話を聞き、山内の伝統芸能である「花笠踊り」の映像を見た。2日目の午前中、黒川市場に住むおばあちゃんたちに昔の生活についての話を聞き、黒滝という地域の様子を視察し、午後から2つのグループに分かれて、太平洋戦争を体験した上延さんのお話と、黒滝でかつて炭焼きをしていた安村さんのお話を聞いた。

この研修旅行を通して、私が学んだこと・考えたことは3つある。実際に相手と面と向かって話を聞く大切さ、2つ目は地域を活性化するために、地域のいろんな人を巻き込んで活動をしていくことの必要性、3つ目は活動の中心に子どもがいることのメリットである。

1つ目の実際に相手と面と向かって話を聞くことの大切さは、この2日間に行なった3回の地域の人の話の聞き取りを通して、書物では得られなかったことが聞き取りでたくさん得られたように思う。昔の生活などの話を聞いたときに、話をされている方は、笑ったり、嬉しそうに話したり、悲しそうな表情になったり、あるいは、身振り手ぶりをつけて、当時のことを話してくださいました。もし、書物で「昔は食べ物が少なかったので、ドジョウやタニシを取って、食べていた。」と書かれていたものを読んでいたら、「昔の人はかわいそうな生活をしていたんだ。」と思ってしまうかもしれないが、実際にはとても楽しかったと嬉しそうに話す姿をみると、昔の生活は今よりも物は豊かではないが、決して苦しいだけの生活ではなく、楽しいこともたくさんあったのだと伝わる。また、話すほうも聞き手の表情や反応が見えた方が、「この考え方は若い子にはないのか。」などと気づくこともでき、話題を広げることのできるのではないかと思った。

2つ目の地域を活性化するために地域のいろんな人を巻き込んで活動をしていく必要性について述べる。竜王さんの山内エコクラブの話聞いて、子どもたちやその保護者、学校だけではなく、地域の高齢者、行政などを巻き込むことで、地域の一部が地域おこしに励んでいるのではなく、できるだけみんなががんばるという姿勢をつくるのが重要だと学んだ。それによって、何か活動を行なうときに協力が増えたり、活動の幅が広がったりする。また、ただ単に巻き込むのではなく、それぞれに活躍できる場を持つということが重要で、それによって、自分は地域おこしに必要な存在ということが確認でき、継続して積極的に関わりをもつことにつながっていくのだと学んだ。

3つ目の活動の中心に子どもをおくことのメリットについて述べる。山内エコクラブのマスコットキャラクターを決めるアンケートを京都駅で行ったとき、子どもたちが声をかけて行なったので、多くの人が偏見なく協力してくれたと竜王さんが話されていたように、子どもたちが活動している姿は、周りに偏見や活動の難しさなどのハードルを感じさせず、力になってあげようと思いがやすいのだと学んだ。そういった意味で子どもたちと関わる学校は、地域おこしの中心となってくるのではないかと思った。

3つに通していえることは、人と人とのつながりである。多くの人に関わることで、活動の幅や可能性が大きくなるだけでなく、地域の絆が深まるのだと思った。この研修を通して、改めて地域における学校・教員の役割を学ぶことができた。